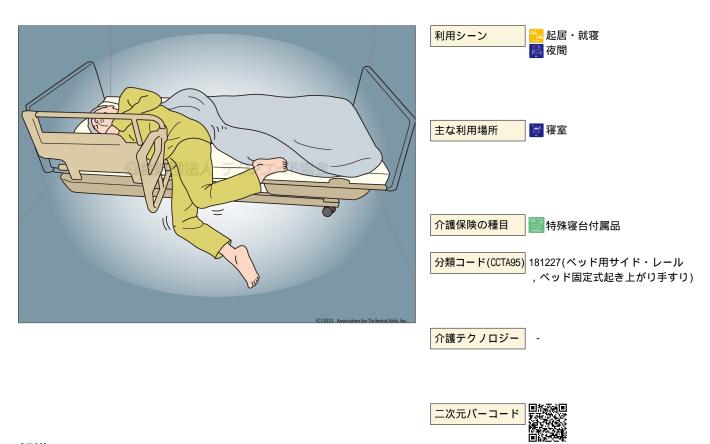
# 福祉用具ヒヤリハット情報

Case: 206

# アームが開いており、転落しそうになる

## 場面の説明

ベッド用グリップのアームを閉じ忘れたため、寝返りをした際に足が落ちてしまい、転落しそうになった



## 解説

ベッド用グリップの多くは「柵」としての役割も果たす構造ですが、立ち上がりを補助する手すりの位置では、ベッドの柵(サイドレール)よりも短くなりベッドから落ちるリスクも高まります。この事例でも、普段は「柵」として機能する位置にセットして就寝していたが、たまたまその日は忘れてしまっていたと報告されており、些細なうっかりが事故につながりかねないことを示しています。

## 参考要因

人:ベッド用グリップのアームを開いたまま寝ていた

人:転落防止の対策を怠った

人:寝相が悪かった

モノ:足元にベッドの柵(サイドレール)が設置されていなかった